



お葬式ってどう決める？

お葬式のやり方って誰がどうやって決めるのか、疑問をお持ちではありませんか？

「お葬式」にはいろいろなやり方があります

「普通のお葬式」というものは存在いたしません

その家で決めたやり方がその家の「お葬式」です

ご参考にして見て下さい

火 葬

基本的には式を行わず、火葬してお骨にするやり方です

1、搬送先・安置先

- ・ 自宅
- ・ 一例 「みしま聖苑」霊安室 （沼津火葬場にも霊安室がございます）

霊安室に安置できるための条件

- 1、霊安室が空いていること
- 2、搬送時間内であること 7時～22時まで
- 3、「みしま聖苑」にて火葬をすること
- 4、火葬の時まで面会等が基本的にできないこと
- 5、棺に納めてあること

深夜に病院などで亡くなった場合などは病院にその旨を申し出ると朝まで病院にて預かっていただけることもあります。

聖苑事務所に予約を **業者が** 取ってからでないと搬送できませんので、何時でもかまいませんのでまずはご一報を。

予約は先着順ですのなるべく早い対応が必要となります。

（みしま聖苑事務局 電話対応時間 7時～24時）

2、火葬予約・火葬許可証手続き

死亡時間から24時間以内は火葬許可をいただけません。

ご遺族様とお話の上で火葬の日時を決め、予約を **業者が** 取ります。

手続きなども基本的には業者が代行いたします。

3、火葬

火葬時間の30分～1時間前には「みしま聖苑」にお越し下さい。

火葬時間中は「控え室」または「ロビー」にてお待ちいただきます。

4、収骨

1時間30分ほどで収骨となります。

収骨の後、菩提寺様等にて「家族だけでお経を唱えてもらいに行く」などもできます。また、後日にお寺などでお葬式もやることも出来ます。

- ・ 菩提寺様にご相談が必要です。

料金	火葬プラン	189,000円+手数料
	宅下り車(10Km以内)	約35,000円
	霊安室使用料・火葬費用	別紙にて
	その他 消耗品など	

密 葬

(生活支援葬儀プラン)

ご自宅へご遺体を安置された場合にのみ、施行ができます。

基本的には「火葬」と変わりませんが「自宅」なのでお寺様にきていただけます。

祭壇は設営いたしません

ご焼香などができる前机のみご用意させていただきます。

また、受付・案内看板なども控えます。

(遺影写真・お花などご希望のある場合はご相談の上設営いたします。)

1、通夜

お寺様が来る来ないにかかわらず、ご家族で一晩お見送りができます

2、出棺・火葬

ご自宅より火葬場へと向かいます。

お寺様が来られる場合は時間を決めますので、
お寺様のスケジュールで出棺時間・火葬時間を決めていく必要があります。
(打ち合わせは業者が同席いたします。)

3、収骨

皆様で収骨していただきます。

当社の立会いは基本的にはここまでとなります。
この後、菩提寺様等にて本葬・納骨などされる場合はご家族様でお願いしています。
(必要があるようでしたら、別途お申し出下さい。)

料金	火葬プラン	189,000円+支援プラン	50,000円+手数料
	宅下げ車(10km以内)	約35,000円	
	霊柩車(10km以内)	約30,000円	
	その他	消耗品等	
	火葬費用	別紙にて	

自宅式

通夜・本葬をご自宅にて施行

「家族葬」から「一般の会葬者が見えられるお葬式」まで可能です。
一番の問題点は「駐車場」の確保になるかもしれません。

天気により設営が左右される場合があります。

式の進行は2通りあります。

- 1、火葬してから本葬 (骨式 本葬をお骨にしてからやる)
- 2、本葬がすんでから火葬 (生式 ご遺体を前にしてお葬式)

お通夜はどちらも変わりません。

1の場合の予定(例)

出棺経	午前8時30分	(家族・親族のみ)
出棺	午前9時30分	(家族・親族のみ)
火葬	午前10時	(家族・親族のみ)
収骨	午前11時30分	(家族・親族のみ)
本葬	午後1時	
初七日	午後2時	
精進落し	午後2時30分	

2の場合の予定(例)

本葬	午前10時
初七日	午前11時
出棺	午前11時30分
火葬	午後0時
精進落し	午後0時30分
収骨	午後1時30分

注意事項

1の場合ですと、お通夜に見えられないでお葬式にくる会葬者は故人のお顔を見てのお別れが出来ません。

ご自宅でのお葬式は「家族葬」が多くなっています。

当社施行プラン

Fプラン ・ Sプラン ・ Tプラン ・ TGプラン

自宅・寺 式

自宅にてお通夜を執り行い、火葬の後、お寺で本葬となります。

静岡県東部では昔から行われているやり方ですが、
実は火葬してからのお葬式というやり方は日本全国から見ると

15%以下の割合でしかありません。

たとえば、江戸時代などで土葬をしていた頃などは先にお葬式をしないと埋葬ができなかったはずですね。

昔はお通夜より本葬の方が重視されていて、
一般会葬者の参列も本葬にみえられる方が多かったので、大勢列席できる
お寺が会場に使われたのだと思います。

しかし最近は平日の葬儀となると、ほとんどの方がお通夜にみえられて
本葬は親族のみという傾向が強くなっています。
この傾向は特に関東圏（東京・横浜など）では当たり前になっていますが、
三島・沼津周辺でも、もう普通になりました。

予定（例）

出棺経	午前8時30分	（家族・親族のみ）
出棺	午前9時30分	（家族・親族のみ）
火葬	午前10時	（家族・親族のみ）
収骨	午前11時30分	（家族・親族のみ）
本葬	午後1時	
初七日	午後2時	
精進落し	午後2時30分	

お寺によっては本堂の祭壇は使わずに、葬儀社に祭壇を飾らせる場合もあります。
これはお葬式は白木の祭壇でやるものだという考え方からなのです。
この場合は「自宅にお通夜で飾る祭壇」と「お寺に飾る祭壇」は別のものです。

したがって、祭壇2組分の請求がかかります。（どの葬儀社も請求してきます）

当社施行プラン

Fプラン ・ Sプラン ・ Tプラン ・ TGプラン

寺 式

本来、お寺にはご遺体は「不浄のもの」として入れることが許されませんでした
しかし最近では時代と共に考え方も変わってきています。

お寺で「お通夜」「お葬式」を執り行なえるところも増えてきました。
ただ、会場・やり方はさまざまです。

- 1 ・「客殿」「通夜専用会場」などで通夜
・火葬
・「本葬」は本堂にて
- 2 ・「客殿」「専用会場」にて通夜・本葬
・火葬
- 3 ・「本堂」にて通夜・本葬
・火葬

どのようなやり方になるかはお寺様の意向となりますので記載はできません。

祭壇もすべてお寺のものを使用し、葬儀社のものは使わないお寺もありますし、
すべて葬儀社のものを使うお寺もあります。

お寺のものをすべて使えるところならば葬儀社の費用はかなり減額されますが、
葬儀社がすべて設営する場合ですと葬儀ホールの方が安かったりします。

また、お寺によっては専属の葬儀社を指定することもありますので、
確認されたほうが安心です。

当社施行プラン

Fプラン ・ Sプラン ・ Tプラン ・ TGプラン

葬儀専用ホール 葬儀社ホール

最近では最も主流になりつつあります。

「自宅を片付ける必要がない」「天気左右されない」「暑い・寒いがない」
「駐車場の心配がない」「場所がわかりやすい」などの理由からです。

三島函南広域行政組合立 「みしま聖苑」

三島市及び函南町に住民票がある方が亡くなった場合は
こちらの公共斎場を使われる方がほとんどではないかと思えます。
近隣をみてもこれだけの設備を持っている市町村はまず見当たりません。

別紙にて使用料を明記してありますが、住民の場合は
通夜・葬儀・火葬・控室1部屋 を使って
小ホール 60,000円 大ホール 70,000円 にて借りることができます。

また、[住民以外の方でも使用料を払えば使用できます](#)
通夜・葬儀・火葬・控室1部屋 を使って
小ホール 170,000円 大ホール 190,000円 にて借りることができます。
高いように感じるかもしれませんが、葬儀社ホールで行う場合もホール使用料は請求されてきます。
(会場・葬儀社により金額は様々です)

「みしま聖苑」を使うメリットとして

- 1、場所がわかりやすく、駐車場が隣接されている
- 2、すべてがきれい
- 3、火葬から収骨まで待つ時間に使う控室が広い
- 4、火葬場が横にあるため、移動による会葬者の遅れなどがない
- 5、火葬場が横にあるので、霊柩車・バスの手配がいらないので、
30,000円から80,000円くらいは費用が節約できます。
- 6、知り合いの葬儀社に任せられる (葬儀費用などの相談がしやすいなど)

デメリットとして考えられるのは、ホールが空くまで待つことくらいです。

しかしこれも考え次第です。
病院などに入院されていた場合は1日でも長くお家に寝かせておいてあげたいと思えますし、
葬儀の準備・打ち合わせなども1日2日余裕があるとバタバタせず、かなり安心できます。
ご遺体の安置に関しては1週間程度ならなにも問題ありません。

当社施行プラン

Fプラン ・ Sプラン ・ Tプラン ・ TGプラン

おすすめしている お葬式

お通夜・告別式の施行あれこれ

お葬式も時代とともに変わってきています
いろいろな地域で施行しているお葬式の中から
三島・沼津周辺地域に合うものをご紹介します



お別れ会式のお通夜

一般会葬者の参列がお通夜重視になっていることはご承知だと思います。

会社関係・義理で見えられている方、様々な方が最初から最後まで列席していますが、何度も経験がありますが、式の最中、特にご焼香の済んだあとで隣の人と話を始める方がいて、厳粛な式であるはずなのに雰囲気amarで悪くなってしまうことがあります。

また、施主様はじめご家族の方などが、見えていただいている会葬者に気を配りすぎて故人をお送りする大切な儀式に集中できないこともあります

お寺様によっては親族席を横向きでなく前向きに直し、遺族も祭壇へ向いて座るように指示される方もいらっしゃいますし、立礼（会葬者の焼香の際、遺族が立って挨拶すること）も許していただけないお寺もあります。

これは故人に一番近い家族・親族が故人をお送りすることに全神経を傾けること、「生きている者同士はいつでも会えるので気にすることはない」ということです。

まさにその通りだと思います。

しかしながら、来て頂いた方にもご無礼があってはいけないということもわかります。

そのような事柄をすべて解消できるお通夜の式の1例をご紹介します

親族と会葬者を分けたお通夜

遺族・親族 通夜式 午後5時30分(例)

ご親族はお通夜の日は皆さん早い時間からお集まりになります。
自宅にて皆様で「旅仕度」「納棺」をしますので主な方は午後4時には揃います。

会場に着き、皆様揃われた頃に**親族中心のお通夜**を始めます。

こちらにはお寺様に来ていただいて、読経・焼香などお通夜の儀式をしていただきます。

一般会葬者はいらっしゃらないので式に集中していただけます。
また、ご親族でご高齢の方も、時間が早いのでお体が楽だと思います。

式が終わり次第、ご住職はお帰りになります。
親族は「親族控室」にてお食事(通夜振舞い)になります。

お別れ会 一般会葬者は自由焼香 午後6時30分より午後7時30分(例)

一般会葬者は上記の時間でしならば、何時に来ていただいてもかまいません。

ご住職はいませんので、着席することなくご焼香だけをしていただきます。
この時、施主様始め、主なご親族は残っていただいてご挨拶をしていただきます。
お話などもしていただけるようになります。

お棺も中央に出して蓋も開けておき、お別れに見えられた方にもお顔を見ていただいたり
お花なども手向けてもらうこともできます。
また、会場には故人の好きだった音楽などを流しておくこともできます。

このやり方はメリットだらけです。

- 1、親族は式に集中できる
- 2、会葬者は自分の時間で来場できる (時間の負担がない)
- 3、会葬者は座らないので、席がなく立っているようなことがない
(会場の大きさなどを心配しないでもよい)
- 4、駐車場がいっぱいになるようなことがない (回転が早い)
- 5、会葬者の受付時に「香典返し」と一緒に「通夜返礼品(ジュースビール)」を渡せる
- 6、時間が集中しないので受付が混まない
- 7、特に仲のよかったお友達など、参列希望の方は「親族通夜」に出していただく

受付は午後6時くらいから始めます。
親族は終わってから受付するか、翌日の葬儀の受付に出します。

「みしま聖苑」は通夜の食事はもともと親族(もしくは組)しかできません。

ご参考にして見て下さい

お別れ会（ホーム葬 施設葬）

老人ホームなどの施設に長くお世話になっている方が亡くなった場合、施主様のご近所の方々にはご本人を知らない方もいらっしゃると思います。

また、一緒に施設で暮らしていた方々は葬儀に参列することは困難かと思われず。

そのような場合は施設に会場（部屋）があり、また施設の許可がいただけるようでしたら故人とのお別れを、暮らされていた方々とご家族の皆様でしていただけます。

注意していただくこと

- 1、時間 施設のスケジュール（食事時間など）により時間を決めます
- 2、読経 ご住職による読経をご希望される方もあるかとは思いますが、参列していただく施設の方々の時間を拘束するようになりますので、施設では「お別れ会」のみとして、火葬の後、ご家族でお寺にて「お葬式」をしていただくようなやり方もあります。もちろんスケジュールが合えば、可能です。
- 3、会葬者 一般の方の会葬はご遠慮していただきます。会葬者がある場合は「施設葬」は難しくなります。
- 4、霊柩車 地域との取り決めなどにより霊柩車が入りできない施設もあります。その場合は病院などにお迎えに行く「ワゴンタイプ」のお車となります（料金は霊柩車より安くなります）

「施設葬」は基本的には大きな祭壇などは組まないで、受付・看板なども出しませんので費用の面でもご考慮していただければと思います。

当社施行プラン

生活支援プラン ・ Fプラン ・ Sプラン ・ Tプラン

家族葬

今、よく聞くようになった「家族葬」。
言葉ではなんとなくわかるような気がします。

しかし、気をつけないといけないこともいくつか。



家族葬の注意点

1、 故人の友人・知人関係

親・兄弟でも友人・知人の事は、なかなか全部は把握ができませんね。
誰と誰に知らせていいのか、誰に来てほしいのか、
また逆に知らせてほしくない人は誰なのか、いろいろあると思います。

「家族葬だから」といって、知らせることなく終わらせてしまっていていいのかどうか、
大変難しい問題です。

2、 親戚関係への承諾

葬儀の打ち合わせをする際ご家族だけでなく、故人のご兄弟、本家、実家など
いろいろな関係の方々と同席する場合がありますが、
ご家族との意見が合わずに口論になるようなことがあります。
これは「家族葬」に限ったことではありませんが、
「葬式はこうやるもんだ！」という考えをお持ちの目上の方を納得させるのは
なかなか難しい事柄のひとつです。

業者にとって「葬儀の依頼主」はあくまでも喪主さんであり施主さんであり、
またご家族の方です。

「葬儀代金は全部持つ！」というご親戚がいるようならばまた話は別ですが、
かかった費用はご家族の方に請求がいくのが普通です。

あまりにも話がまとまらない場合、業者は1度引き返し、話がまとまってから
再度打ち合わせに来るようなこともありました。

ではどうすればいいのか

どこからも文句がでないのは「故人の意思」であることが明白なこと。

今、「エンディング ノート」などと呼ばれる生前記録ノートが人気です。
お友達のことから預金残高・不動産まで自分のことを残しておけるノートです。

自分のご親戚のことなら、わかると思います。

もめる様な事が予想できるなら、残る家族のために必要なことかもしれません。

葬儀の費用面のこと

昔は「お香典」ですべてをまかなうことが出来たお葬式ですが、

今ではそうはいかなくなってきました。

何をどうすればいいのか、ご参考までに。

1、「葬儀社」におまかせしないこと

お葬式は突然やってきます。みなさんが普通の状態ではない中で打ち合わせが始まります。この時「わからないから葬儀屋さんに任せます」「恥ずかしくないお葬式にしてください」と言われる方がいらっしゃると思いますが、これは葬儀社に「いくら請求してもいい」と言われたことと同じことです。

家族の意思ははっきりと伝え、すべての打ち合わせが終わったら「見積もり」の依頼をするべきです。

たしかに食事の数、香典返しの数などは変更になりますが、基本的な葬儀費用はおよその金額がでできます。

金額の心配をしながら葬儀に臨むより、ずっといいと思いませんか。

実際にあった例です。

- 祭壇 - 基本セット（無料）の祭壇を80万円の祭壇へ変更
- 生花祭壇 - 50万円分の飾りつけ
- 棺 - 基本セット（無料）から彫刻の30万円に変更
- 食事 - 2,500円のものから5,000円のものに変更
100個だったので50万円の請求（差額25万円）
- お返し - 1,000円のお茶から3,500円のものへ変更
350個だったので1,225,000円の請求（差額875,000円）

これだけのものが承諾なしで手配されました。

その他にもいろいろなものが追加されて、たぶん120万円で収まったはずの葬儀が400万円近い請求がきたそうです。

「恥ずかしくない」とかいう単語は人により基準が違います。しかし、やってしまい終わったものは払わなくてははいけません。

当社ではかなり細かい打ち合わせをさせていただいています。

飾らせていただくお花の種類とか色などをはじめ、音楽とかいろいろなものの希望を伺いご家族の方に満足してもらえるお葬式にするように。

わずか2,3日のことに車を買えるくらいの金額を支払っていただくのです。

自分たちの納得するお葬式は、葬儀社との打ち合わせがすべてです。

2、お葬式以外にかかる費用

「お葬式にかかった費用」は人によりとり方がさまざまです。
「葬儀社」に払った金額のことを言う方もあれば、
お坊さんへのお布施も含んだ金額を言う方もあります。

基本的なものを挙げてみます

- ・ 葬儀 - 祭壇・会場費など葬儀そのものの費用
- ・ 使用品 - 食事・香典返し・車関係などの費用
- ・ お布施 - お寺などへの謝礼

お葬式の後

- ・ 四十九日法要 - お布施・会食・返礼品
- ・ 返礼品 - 高額のお香典をいただいた方などへのお返し
- ・ 仏壇 - ない場合
- ・ 墓地 - ない場合
- ・ 菩提寺 - 決まっていない場合
- ・ 一周忌法要
- ・ 三回忌法要

二年の間に（三回忌までに）最低これだけは予定があります。

菩提寺もなく初めてお葬式を出したお家はかなりの費用がかかります。

葬儀の費用だけにお金を使ってしまう訳にはいきません。

それでは、実際に施行させていただいた例をご紹介します。

葬儀自体には費用をかけないで、ご友人の方々とはお別れをし、
ご親戚にはきちんと葬儀に参列していただいた例です。

「家族葬」の施行例

打ち合わせの時にご事情を伺い、提案させていただきました。

1、通夜・葬儀までの日程の余裕をとります。

お通夜まではご遺体をお家に安置するようになりますが、2日～3日ほどゆとりを持つようにします。

安置した日から、通夜の日の午前中くらいまでの間に、「ご友人」「知人」の方たちには自宅へお別れに来て頂けるように通達を出します。

特に時間の指定はしませんので来る方はご自分の予定で見えられます。

葬儀会場でよりはゆっくりお別れができます。

通達を出す際には「通夜・葬儀」は親族だけで行うことも必ず伝えます。

このとき自宅には「会葬礼状」「香典返し（お茶など）」は用意しておきます。

「お香典」をお持ちになる方が多いので必要です。

（通達が理解されていれば、葬儀には出向けないとわかっているの）

「会社関係」「取引先」などには「家族葬」ということを伝え、参列をご遠慮していただくよう通達を出します。

会社関係などは葬儀の後、「お香典」をいただくことが多いので「香典返し」は余分に用意しておきます。

ほとんどの業者は後から返品ができるはずですが。

2、通夜・本葬

基本的に「親族」中心でのお通夜です。会場はホールを使用しました。

「家族」「親族」ですから祭壇などはシンプルなもので十分だと思います。

「家族葬で行う」という通達は一般の方には通達されていますので、会葬者の方はほとんど見えられないはずですが、何人かは見えれる事があります。

帰っていただく訳にもいきませんので、ご関係によっては参列していただきます。

（会社関係ならご焼香だけ、故人のご友人関係なら列席など）

このとき司会者には必ず

「家族・親族のみのお式という形をとらせていただいておりますので、ご会葬の方々には行き届かない点があるかと存じますが、ご了承いただきますように」という旨のアナウンスをしていただきます。

これにより、「シンプルな祭壇の意味」「おもてなしの省略」などをわかっていただきます。

家族葬なので「受付」は基本的には設営いたしません。

ご近所の方々のお手伝いもお願いしていませんので係がおりません。

たとえば、施主様のお子様（故人の孫）などでやっていただけるようなら設営いたします。

また、必要でしたら当社から受付係を用意いたします。

3、注意点など

このようなお式をさせていただきました。
式に列席されたご親族は30名ほどでした。
この時には、食事・お香典返しなども含めて「110万円」ほどの請求となりました。
施主さんが社員の多い会社にお勤めの方でしたので、
香典返しが後から追加されて「300個 315,000円」となったためです。
しかし、その分「お香典」をいただいていますので十分まかなえました。

「家族葬」ということで参列者も少なく、お寺様にも
「がやがやしなくて、お経に専念できてよかったよ」といって頂きました。
少人数ということでお手伝いのお役僧さまも無く、
お一人でやっていただきましたので大変助かりました。

**このお家の施行はとてもスムーズにきました。
その理由は・・・**

- ・病院から自宅へ戻る間には、本当に主な親族にしか連絡しなかった
(日程などすべてが決まってから連絡しようとしたため)

・お寺へ連絡する前に、当社に連絡し細かい打ち合わせができた。

これがかかなり重要でした。

ご自宅に安置すると「枕経」といい、仏になるための最初のお経を唱えにお寺様が見えられます。
その後日程などの打ち合わせになるのですが、業者が間に入ってお話となります。

この時点でご家族の方と業者とで細かい打ち合わせ・ご意向などが伝わっていると
業者からお寺様に細かいお話ができます。
最初からお寺様がいらっしゃる席ではこちらもアドバイスがなかなか出来ません。
また、話も伝わらずに希望通りのお葬式ができないことにもなりかねません。

ご親戚の方の中には連絡をもらおうと「それ、お寺に電話だ！」と先走る方もいらっしゃいます。
ご家族のご用意が出来ていないのに、お寺様が来てしまうとなにもできません。

葬儀業者は「ご家族」と「お寺」・「ご家族」と「ご親戚」などの間に入り、
お葬式がスムーズに行くようにお手伝いをさせていただく仕事です。
出来れば「ご家族」の意向に合わないようなお葬式はしたくありません。
しかし、それには「ご家族」のお考え・希望などお話を聞かなければやりようがありません。

お話をうかがった内容にしていくように、これまでしてきた経験・情報などを元に
よい方法をその度にアドバイスさせていただきます。
時には「それはやめたほうがいい」というアドバイスもいたします。必要なことでしたら。
それも葬儀社の仕事です。
ただ、祭壇飾って日程決めればおしまいという仕事ではないのですから。